

この秋にも住宅移転開始へ



写真は
新駅北側
建設現場

新駅周辺を視察 日本共産党議員団

日本共産党議員団は6日、新幹線新駅の建設現場を訪問、本線の建設状況と、新駅周辺整備の進捗状況を視察しました。

鉄道・運輸機構によると、長野～糸魚川の工事は用地買収がほぼ終わり、トンネルもすべて貫通したとのこと。明かり(地上)区間も同時に何カ所も工事を進めており、今年度中には一通り終わること。全体の姿が見えてくるのももうすぐのようです。

先日直江津港にレールが陸揚げされたことが報道されましたが、そのレールは数カ所に引き上げヤードを作って高架橋に揚げ、200メートル程度につないだ上でトンネルに優先的に押し込むとのこと。



新駅プラットフォーム予定箇所

新駅周辺整備では、移転する民家の移転先造成にもめどがつき、この夏には移転先での新築ができるとのこと。今年度は西側広場の道路計画地にあるお宅を優先的に、15軒のお宅が移転する計画であるとのこと。



新駅東側 現脇野田駅方向

新駅中央部の展望所からは、新駅周辺の整備計画地が一望でき、特に西側は将来の姿も想像できるほどです。しかし東側はあまり手が付けられておらず、これからといったところ。心配なのは信越本線の移設工事です。工事の引き受け手のめどがつかない状態ですが、東側駅前広場のど真ん中を信越線が通っていますので、このままではどうにもなりません。一日も早い解決が望まれます。

ほんの小さな段差も大きな脅威

高齢者疑似体験で公共施設のユニバーサルデザインを検証



用具を身につけ高齢者体験

上越市内の公共施設は、体の不自由な人でも快適に使える状態になっているのか。日本共産党議員団は6日、上越市役所、上越文化会館、市民プラザの3箇所をユニバーサルデザイン推進の立場で視察、検証しました。

当日は4人のメンバー全員が高齢者疑似体験具を身につけ、手足、目耳が不自由な状態を作り出して検証に臨みました。こうした状態で歩いてみると、ふだん何気なく乗り越えていたほんのちよつとの段差もつまずきのもとになり、かなり怖い感じがします。

また、車いすでの移動では、段差解消のためのスロープも、実はたいへん。自分で進むとうとして

も、上りも下りもかなりの力がいられます。途中で休もうものなら、そのまゝ暴走ということになりかねません。介助者がいても、たいへんな力仕事です。

上越文化会館は、総合案内受付カウンターに車いす利用者も受付できるように、座位用カウンターを併設するなど、ユニバーサルデザインの推進に留意しており、建物の古さをカバーしています。また、市役所では、1階の多機能トイレを広く取るなど、工夫が見られます。

しかし、一方で、市役所玄関前障がい者用駐車場の表示が消えかかっている、舗装が粗くてで



これぐらいの段差でも危険感じる(文化会館広場前歩道)



表示が消えかかっている駐車場

こぼこしている、スロープがきついなど、改善が必要な点があります。さらに、市民課受付では、パンフレット棚やイスの配置が、車いす通行の支障になりかねません。こうした検証を今後も積み重ねていきます。



新設の1階多機能トイレは広くて快適

日本共産党上越市議員団ニュース

No.233 2010年5月16日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
樋口 良子 544-6802 (中門前3)
上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 525-9096 (上中田)

盛大に『「五センチ」になった母』出版記念会

橋爪議員の3冊目の随想集、『「五センチ」になった母』の出版記念会が8日、吉川区内で開催され、出版に関わった人や本に登場した人たちなど57人が参加しました。記念会では、橋爪議員の文章の特徴や作成過程が明らかにされたほか、本に関わる

様々なエピソードが紹介され、感動を呼びました。同書は同時代社から発行され1000円。市内の春陽館書店、柿村書店、吉野書店などで販売されています。議員控室にもあります。ぜひお読みください。

